

2012年3月期 決算説明資料

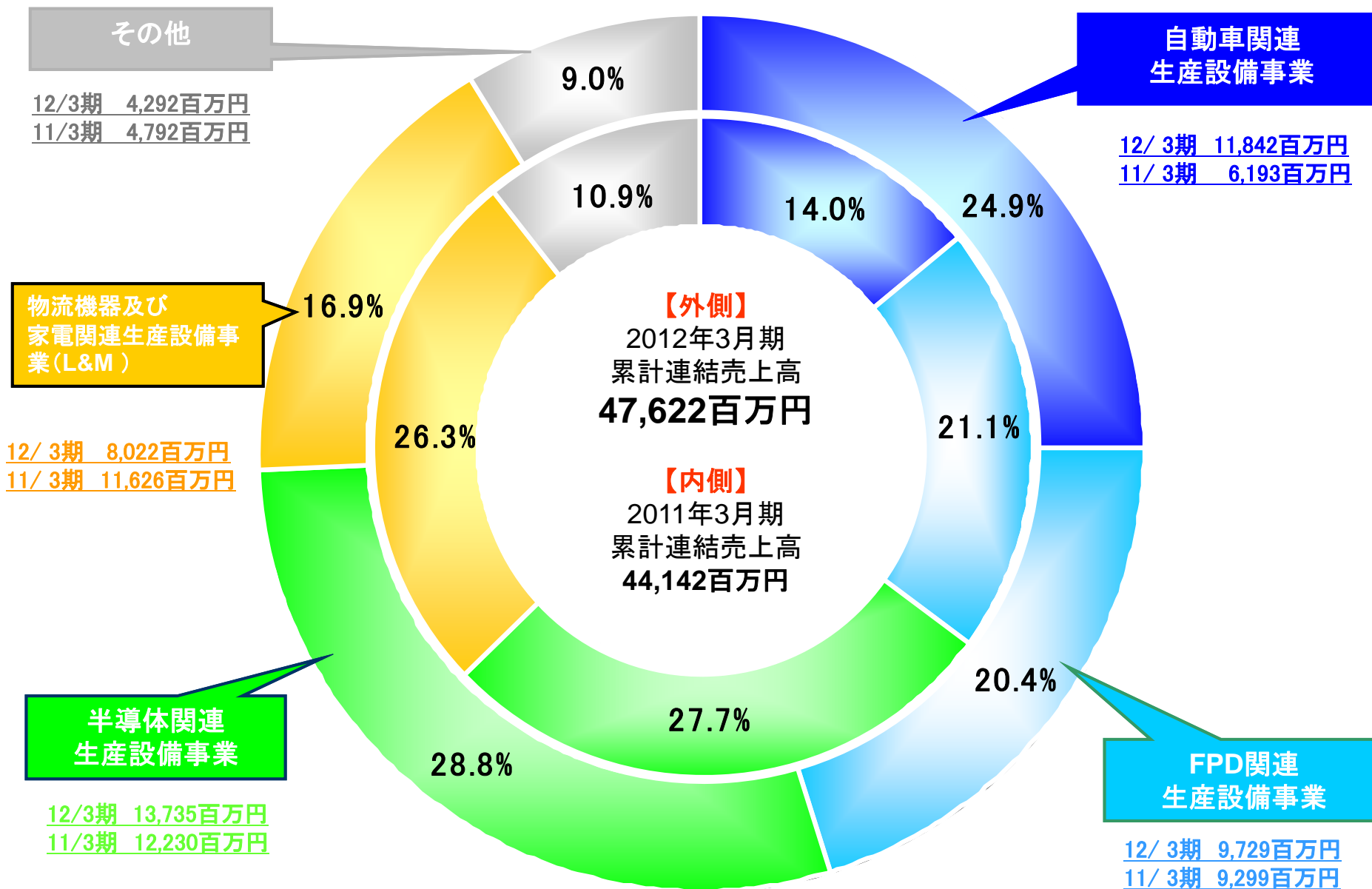
平田機工株式会社 2012.5.24



I 決算状況

2012年3月期（2012年3月31日）

I 決算状況 事業部門別売上高構成比



I 決算状況 決算概要

決算概要

- 連結売上高は期首予想にわずかに届かなかったものの対前期比では増加。
- 連結営業利益、経常利益、当期純利益は、原材料費や外注費の増加、関係会社の整理費用の等により、対前期比減少。尚、経常利益は貸倒引当金の戻し入れにより営業利益を上回った。

連結決算

(単位:百万円)

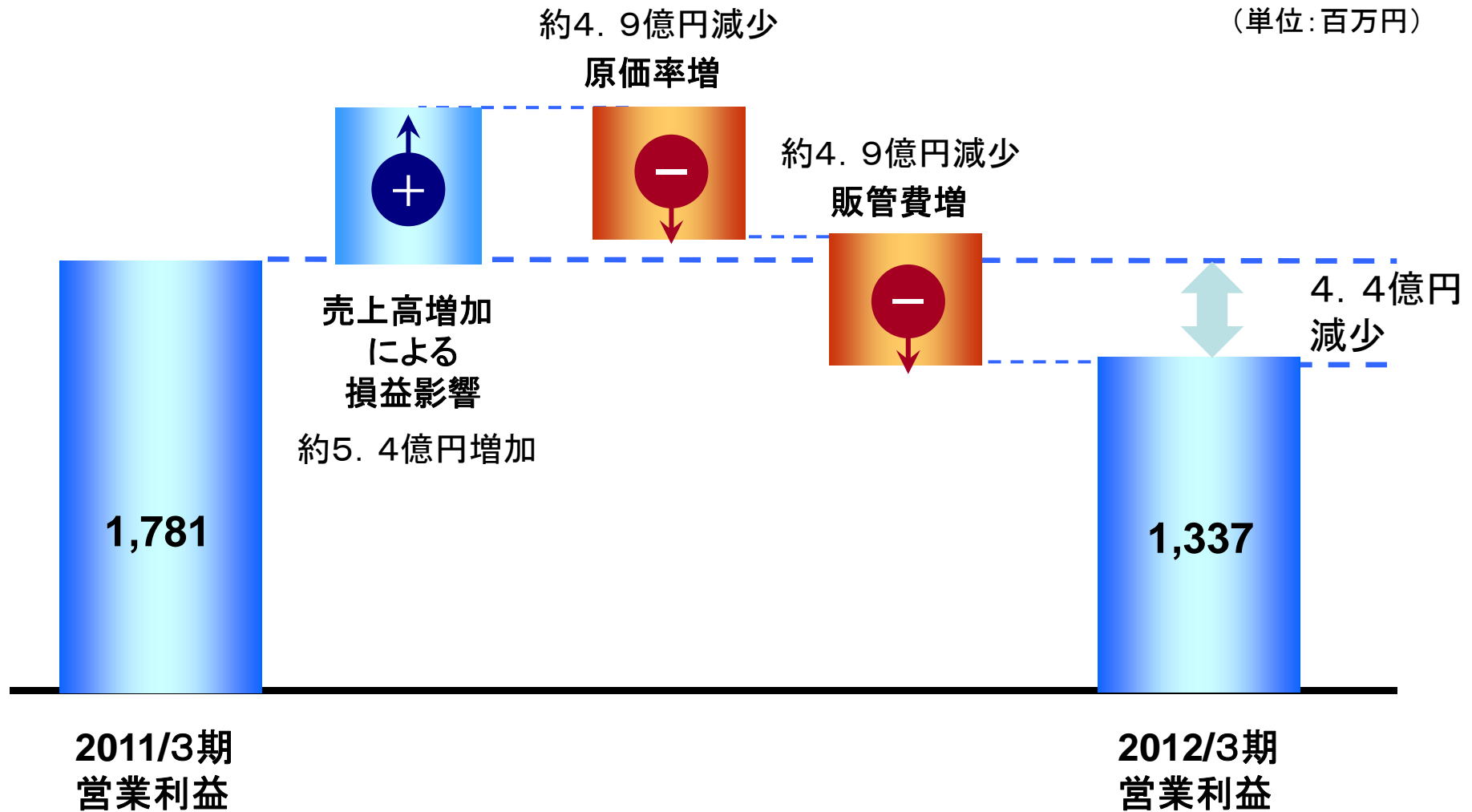
項目	2011年3月期 実績	期初 通期連結業績予想	2012年3月期		
			実績	達成率 (対期初予想)	前期比 増減率
売上高	44,142	50,000	47,622	△4.8%	+7.9%
営業利益	1,781	1,600	1,337	△16.4%	△24.9%
経常利益	1,554	1,400	1,464	+4.6%	△5.8%
当期純利益	941	800	489	△38.8%	△48.0%

単体決算

項目	2011年3月期 実績	期初 通期個別業績予想	2012年3月期		
			実績	達成率 (対期初予想)	前期比 増減率
売上高	35,014	40,000	38,575	△3.6%	+10.2%
経常利益	1,544	1,000	1,160	+16.1%	△24.8%
当期純利益	1,107	550	266	△51.6%	△76.0%

I 決算状況 営業利益の増減要因分析

(単位:百万円)



I 決算状況 事業部門別連結売上高

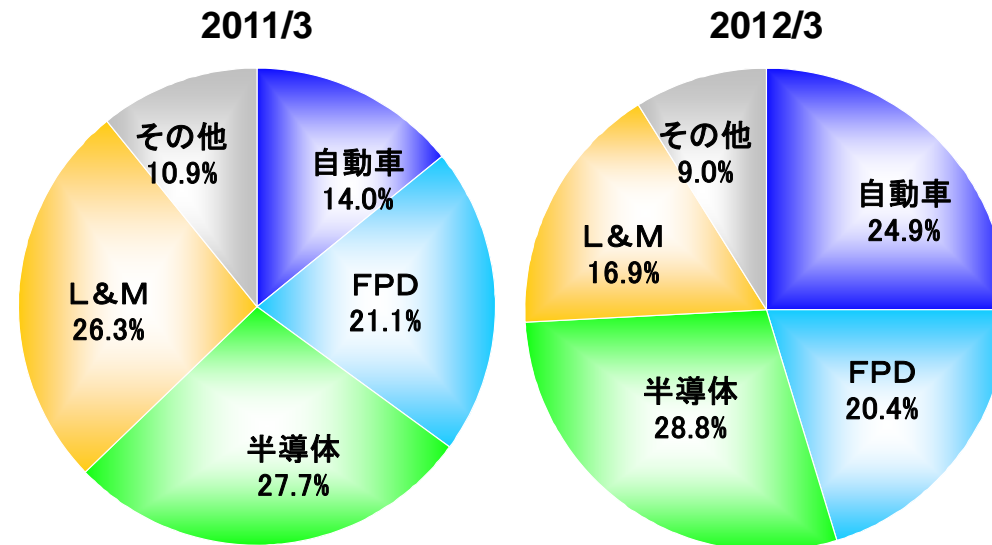
■ L&M関連は減収となったものの、自動車関連の大幅な増収等により全体では増収。

- ・ 自動車関連設備：北米向け大型案件を中心に堅調に推移し、大幅に増収(+91.2%)
- ・ FPD関連設備：厳しい受注環境の中、中国向け案件が堅調で増収(+4.6%)
- ・ 半導体関連設備：大型の製造受託案件の売上が継続し、増収(+12.3%)
- ・ L&M関連設備：タイヤ関連や家電関連の大型案件を売り上げた前期に比較すると減収(△31.0%)

事業部門別売上高の状況

単位：百万円

事業部門	2011/3	2012/3	前期比 増減率
自動車	6,193	11,842	+91.2%
FPD	9,299	9,729	+4.6%
半導体	12,230	13,735	+12.3%
L&M	11,626	8,022	△31.0%
その他	4,792	4,292	△10.4%
合計	44,142	47,622	+7.9%



I 決算状況 事業部門別連結受注高

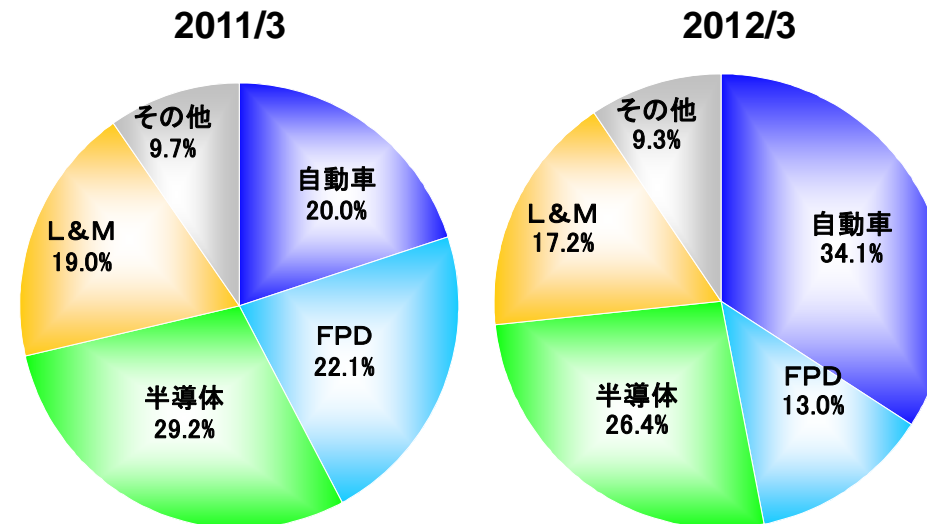
■ 自動車関連は大幅に増加したものの、他の部門の減少により全体では減少。

- ・自動車関連設備：北米メーカー向けエンジン組立ラインや国内の部品メーカー向けの大型案件により大幅に増加(+53.0%)
- ・FPD関連設備：テレビ等の需要低下に伴い大幅に減少(△47.3%)
- ・半導体関連設備：大型の製造受託案件の受注が継続しているものの全体的には減少(△18.9%)
- ・L&M関連設備：タイヤ関連の減少と受注規模の小型化に伴い減少(△18.7%)

事業部門別受注高の状況

単位：百万円

事業部門	2011/3	2012/3	前期比 増減率
自動車	10,185	15,588	+53.0%
FPD	11,295	5,952	△47.3%
半導体	14,892	12,076	△18.9%
L&M	9,682	7,869	△18.7%
その他	4,923	4,275	△13.1%
合計	50,979	45,762	△10.2%

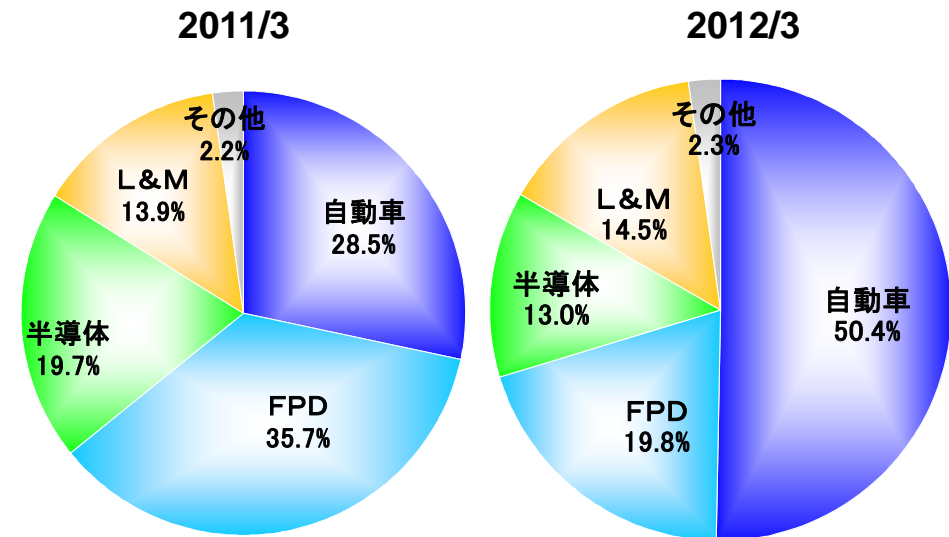


I 決算状況 事業部門別連結受注残高

- 自動車関連は大幅に増加したが、FPD他の減少により、全体では減少。

事業部門別受注残高の状況 単位:百万円

事業部門	2011/3	2012/3	前期比 増減率
自動車	6,076	9,823	+61.7%
FPD	7,630	3,853	△49.5%
半導体	4,204	2,544	△39.5%
L&M	2,976	2,823	△5.1%
その他	466	449	△3.7%
合計	21,354	19,494	△8.7%



II トピックス

GM社からSupplier of the Year受賞

2012年3月13日、米国自動車会社 General Motors Company(以下「GM社」)から Supplier of the Year を受賞しました。

GM社は、同社に部品や設備等を供給する世界中の20,000社を超えるサプライヤーの中から、特に多大な貢献をしたと評価した企業を表彰しています。本年は82社が受賞し、パワートレインの組立部門では世界で唯一、当社が受賞しました。当社は、1994年より、GM社はじめ米国の自動車会社から、エンジン組立ラインなど数十億円規模の大型設備を継続的に注文いただき、当社製品の技術、品質及び納期について高い評価をいただいております。

このような長期に渡って続く高い評価とそれによる信頼関係が今回の受賞に繋がったものと考えます。



新型ロボットの開発

業界トップクラスの高速性能を実現した水平多関節型ロボットおよび組合せバリエーション豊富な直交小型ロボット等を開発し、市場に投入することを決定いたしました。

生産ライン向けに、新型の水平多関節(SCARA型)ロボット、直交小型ロボットおよびその制御用コントローラーを開発し、本年6月より受注を開始する予定です。水平多関節ロボットについては、標準サイクルタイムを、0.28秒と、当社旧機種比で半減させ、業界トップクラスの高速動作を実現するとともに、低価格化、メンテナンス性の向上を実現しております。



Ⅲ 中期経営計画

2012年3月期（2012年3月31日）

2013年3月期～2015年3月期 中期経営計画

PLUS ONE 61

本中期経営計画の理念

1. 現在の事業基盤を固めることに加え、事業拡大が期待できる市場や分野へ価値を「Plus One(プラス・ワン)」した活動により持続的な成長軌道を創る。
2. 世界経済は緩やかな回復基調を維持するとみられるものの足許では欧州債務問題の深刻化により世界的な景気の失速リスクも浮上している事から損益分岐点売上高の引き下げ努力を継続する。
特に変動費比率の低減の為に、内部リソースの効率的な活用を積極化する。

Ⅲ 中期経営計画 経営目標値

当中期経営計画の最終年度である2014年度（2015年3月期）の経営目標値は以下のとおり。

	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2015年3月期 目標
売上高	33,455 百万円	44,142 百万円	47,622 百万円	550億円 以上
売上高営業利益率	1.1	4.0	2.8	5%以上
ROE (株主資本利益率) ※1	0.3	7.2	3.5	10%以上
ネット有利子負債比率 ※2	0.8	0.9	0.9	1以下

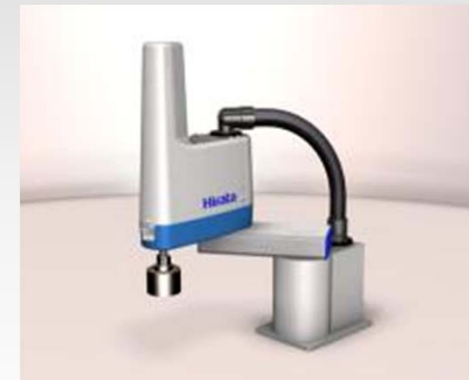
※1: 連結当期純利益 ÷ 連結株主資本 (期中平均)

※2: (有利子負債残高 - 現金及び預金) ÷ 連結株主資本

1. 事業戦略

- A: 現在の事業領域を深耕する(既存市場・分野での内部固めの深耕)
- B: 新市場(成長市場での展開を加速)でのポジションを確たるものにする
- C: 新規事業領域の拡大(新分野への展開)

上記3つのベクトル毎に「価値を強める・高める・付加する～PLUS ONE～」しHirataグループのグローバル展開力を加速させることにある



Ⅲ 中期経営計画 事業戦略詳細

	自動車パワートレイン	自動車部品	液晶パネル搬送	太陽電池	半導体機器	コーター
A. 現在の事業領域の深耕	現地製造を推進	自動車組立ステーションのベースマシン化	ロボット・オートローダー等の現地生産	主要顧客のグローバル展開に対応	300/450mmのEFEMビジネスを拡大 海外サービス拠点の充実	低価格コーターの開発 コーターシステムの商品化
B. 新市場でのポジションの確立	北米主要顧客のグローバル展開に対応 欧州市場参入の足掛りを創る 中国ローカル企業への対応	主要顧客のグローバル展開に対応	中国市場での協業ビジネスの確立	部材メーカーとのアライアンス強化	北米装置メーカーを攻略 デバイスメーカーへの販売活動を積極化	
C. 新規事業領域の拡大(新分野への展開)	加工区への受注領域拡大 EV分野への参入	IGBT分野での製造装置を商品化 トレーサビリティソフトの販売	搬送システムで培ったノウハウを基に製品群を整理・商品化し単品ビジネスを展開	モジュール工程でのハイエンド機の開発	EFEMと真空プラットフォームでの提供 ウェーハソータビジネスに参入	塗布技術の新たな用途開発 部材メーカー・ガラスメーカーとの協同による装置開発を強化
	タイヤ	白物家電	リチウム電池	共通	単品商品・標準ユニット	
A. 現在の事業領域の深耕	主要顧客のグローバル展開に対応	アジア市場でのプレゼンス確立のため、シンガポールを中核とするビジネス・スキームによる受注活動を活発化		社内製ロボット、ベースマシンの充実 グループ最適化によるトータルコストの削減	単品商品および標準ユニットの商品化・販売 企画を検討	
B. 新市場でのポジションの確立	新興国及び主要顧客以外の顧客への展開を積極化					
C. 新規事業領域の拡大(新分野への展開)			ターゲット顧客、及び参入する工程、販売チャネルなどの調査・分析			

Ⅲ 中期経営計画

2. 損益分岐点の引き下げ

- ① 全社規模の生産負荷調整の積極化
引合段階での負荷シミュレーションにより、負荷バランスを適正化する
- ② 調達力の強化
- ③ 新体制での内部生産の最大化

3. 品質の均一化

- ① 第三者検査の原則化
- ② 3Dによる構想シート・デザインレビュー段階での衆知の結集

4. グループ各社の機能を最大限に発揮できる経営管理の確立

- ① グループ各社が果たす役割に応じた評価が的確にできる仕組みづくり
- ② 国際財務報告基準（IFRS）への対応
- ③ BCP（事業継続計画：Business Continuity Plan）への対応

5. 働きがいのある企業づくり

人材育成、及び人事マネジメント
～基本方針：「人材育成」を人事マネジメントの基軸にする～

研究開発投資

商品企画・開発

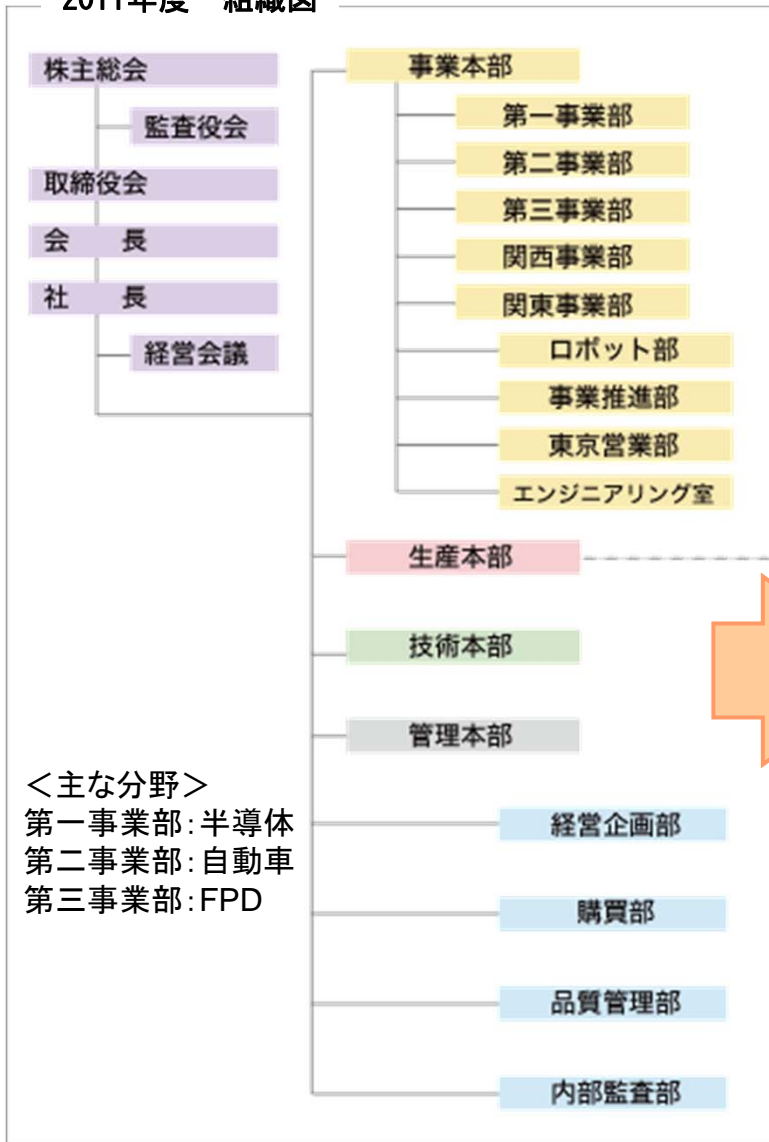
- ① 有機EL照明パネルのノウハウを基に、各種装置を自前製品化する。
- ② 電子部品、半導体後工程に向けた高速高精度ハンドラーを実用化する。

基礎技術開発

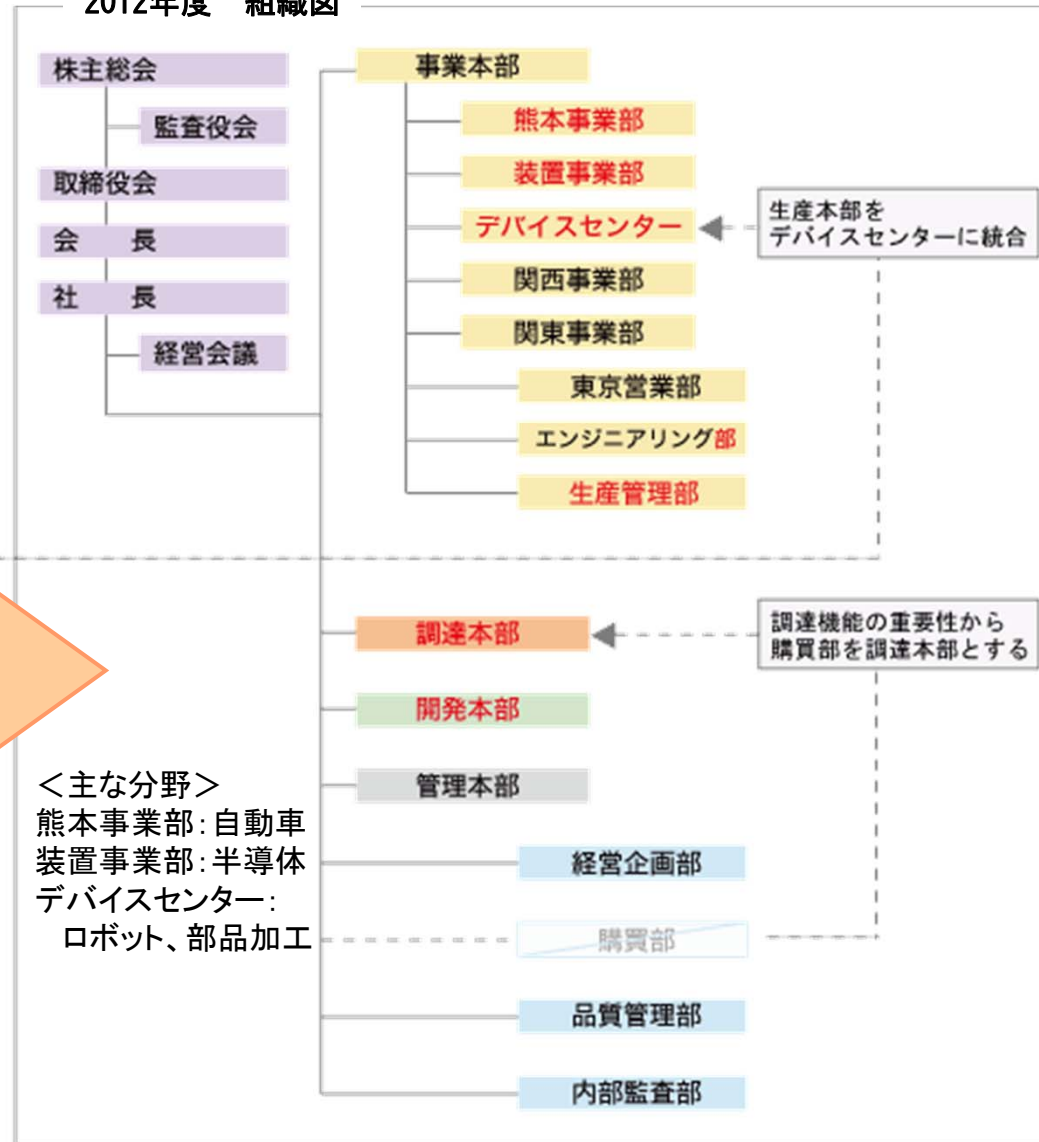
ロボット技術については、当社のコア技術として継続的に技術を高めることにし、機械、制御、ソフトの技術者を集約させた開発環境を整備する。

Ⅲ 中期経営計画 組織再編

2011年度 組織図



2012年度 組織図



IV 2013年3月期業績の見通し

2012年3月期（2012年3月31日）

IV 2013年3月期業績の見通し 業績予想

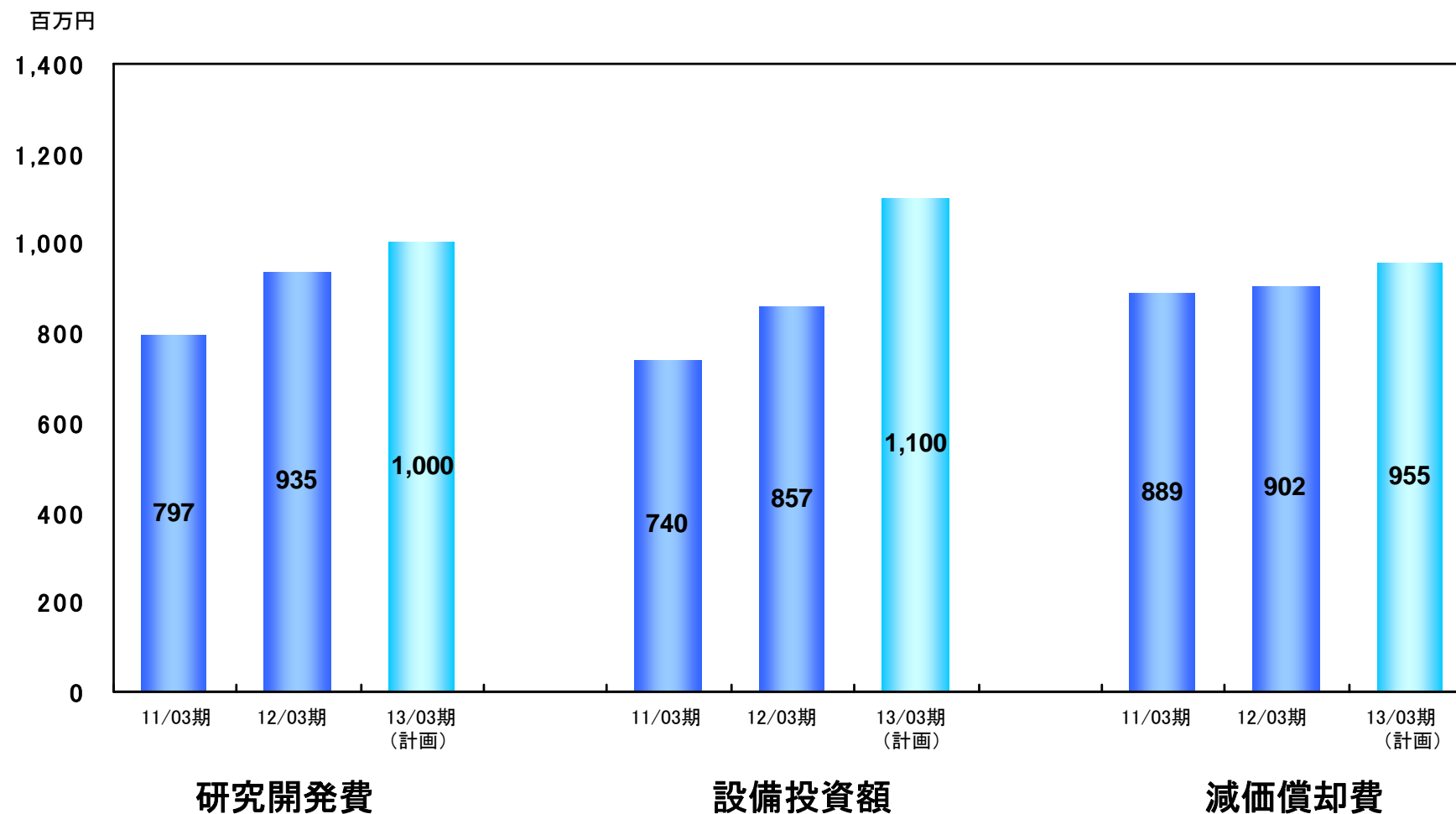
(単位:百万円)

	上期	下期	通期
売上高	26,000	23,000	49,000
自動車関連	11,000	7,500	18,500
半導体関連	7,600	8,200	15,800
家電関連およびその他	4,900	4,800	9,700
その他	2,500	2,500	5,000
営業利益(率)	1,000 (3.8%)	500 (2.2%)	1,500 (3.1%)
経常利益(率)	900 (3.5%)	400 (1.7%)	1,300 (2.7%)
当期純利益(率)	600 (2.3%)	200 (0.9%)	800 (1.6%)

【注】FPD関連事業の売上減少により、今期予想からFPD関連事業は半導体関連事業に含めております。

IV 2013年3月期業績の見通し

研究開発費・設備投資額・減価償却費

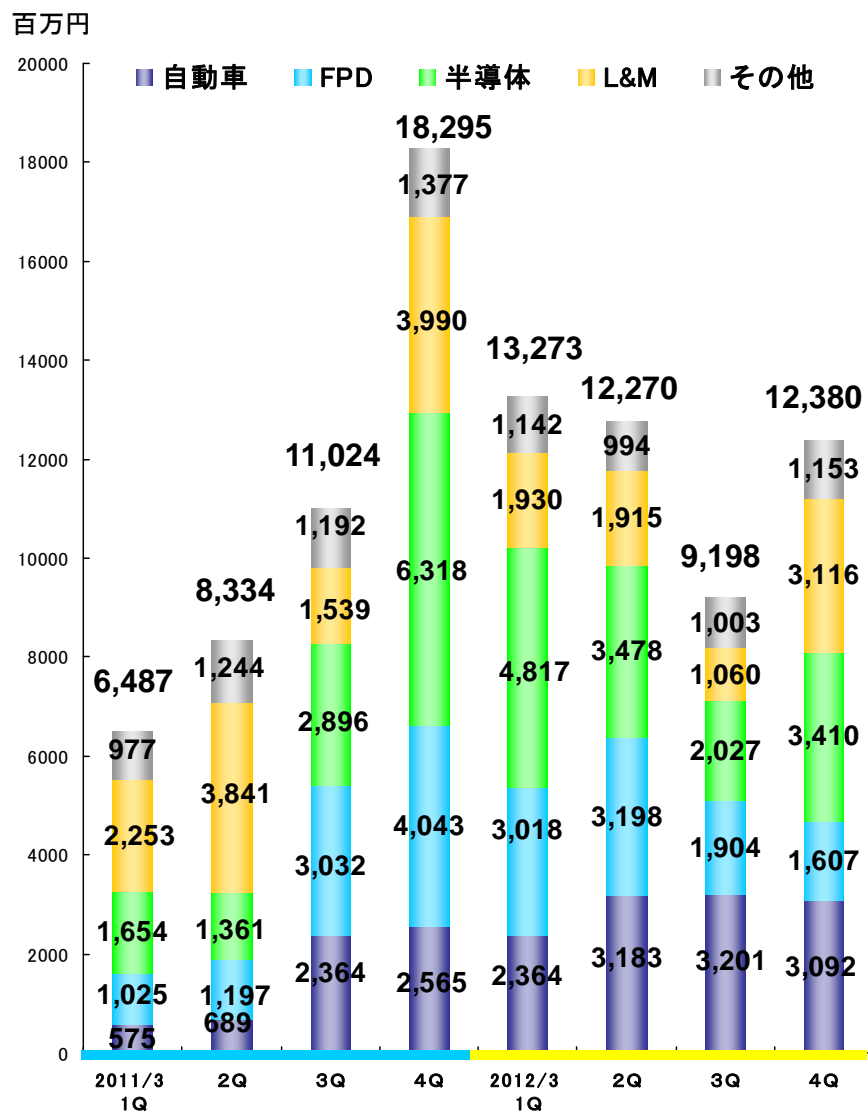


V 参考資料

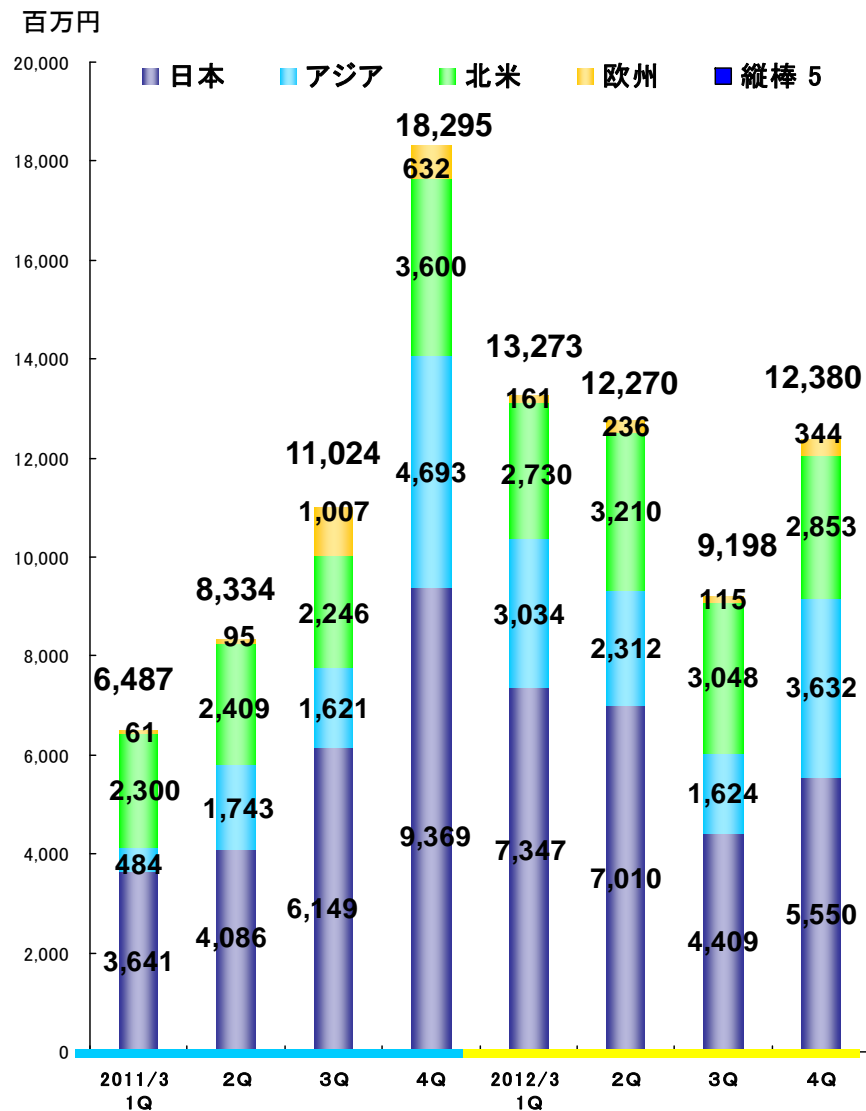
2012年3月期（2012年3月31日）

V 参考資料 事業部門別・地域別四半期推移(売上高)

事業部門別四半期売上高の推移

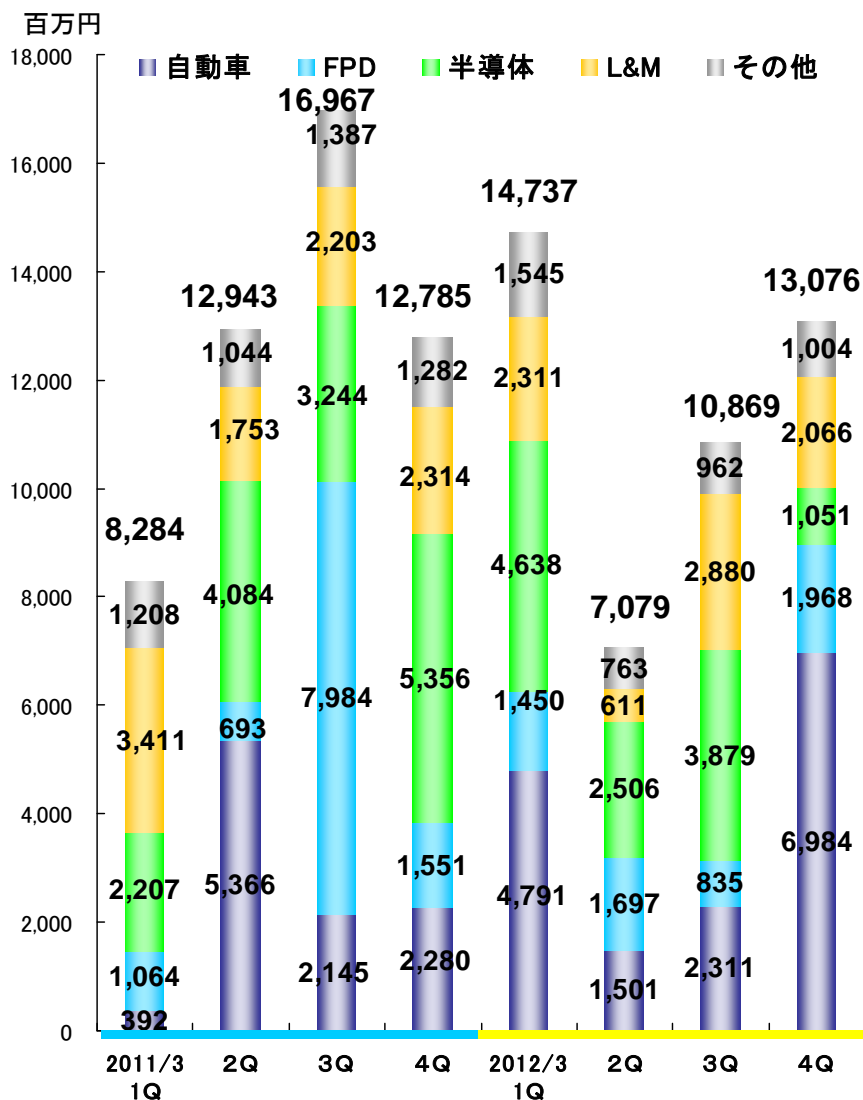


地域別四半期売上高の推移

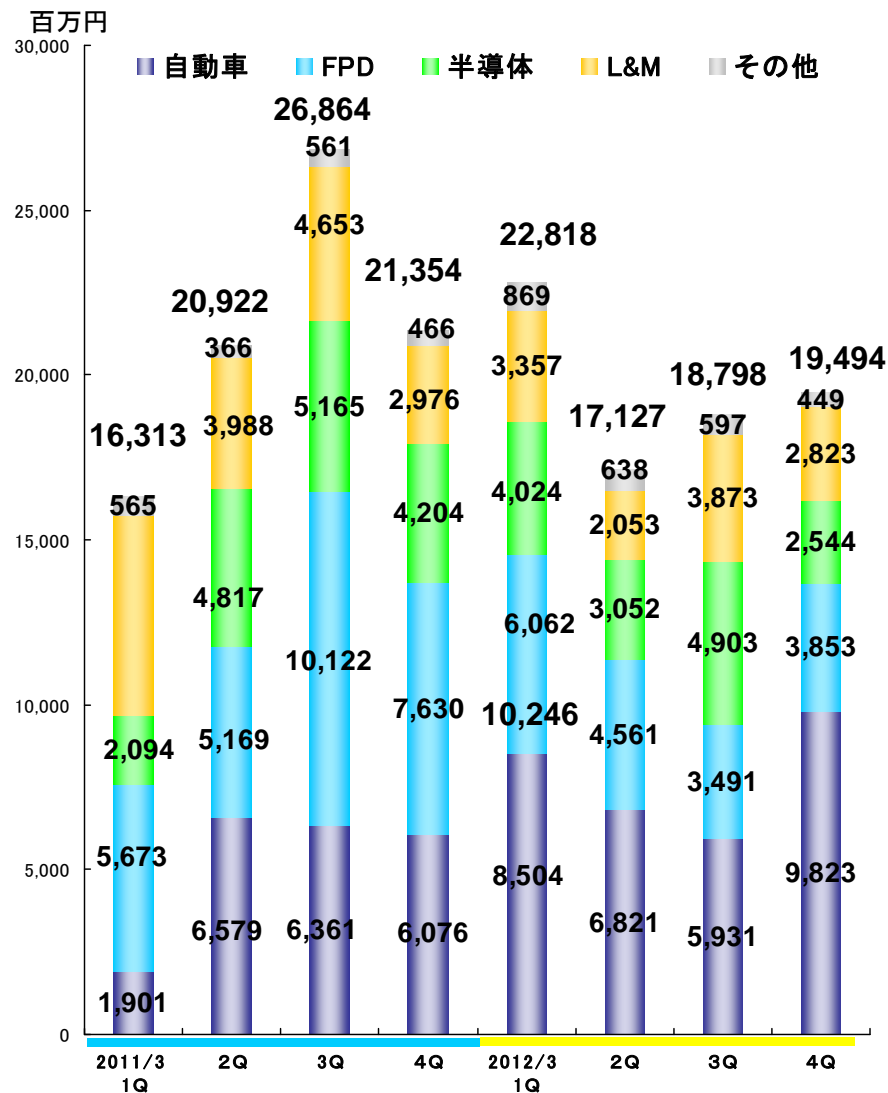


V 参考資料 事業部門別四半期推移(受注高・受注残高)

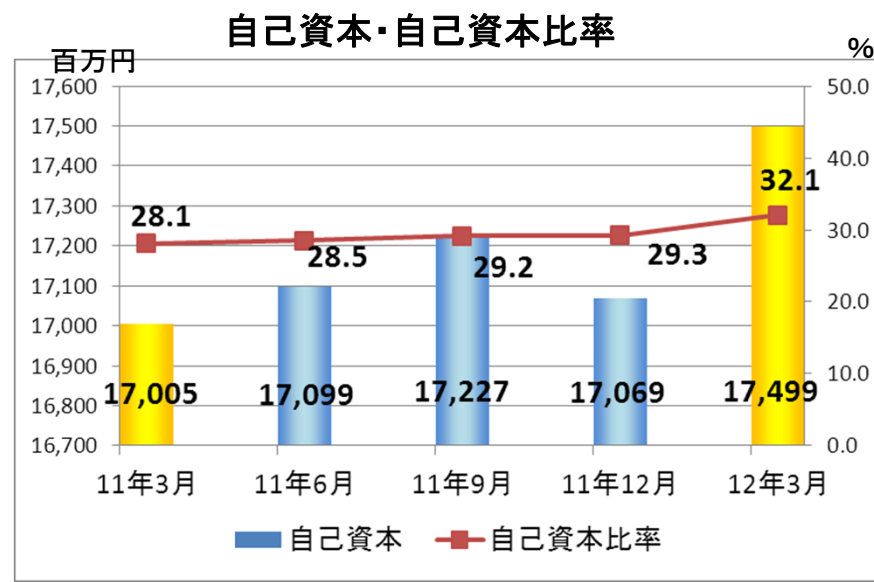
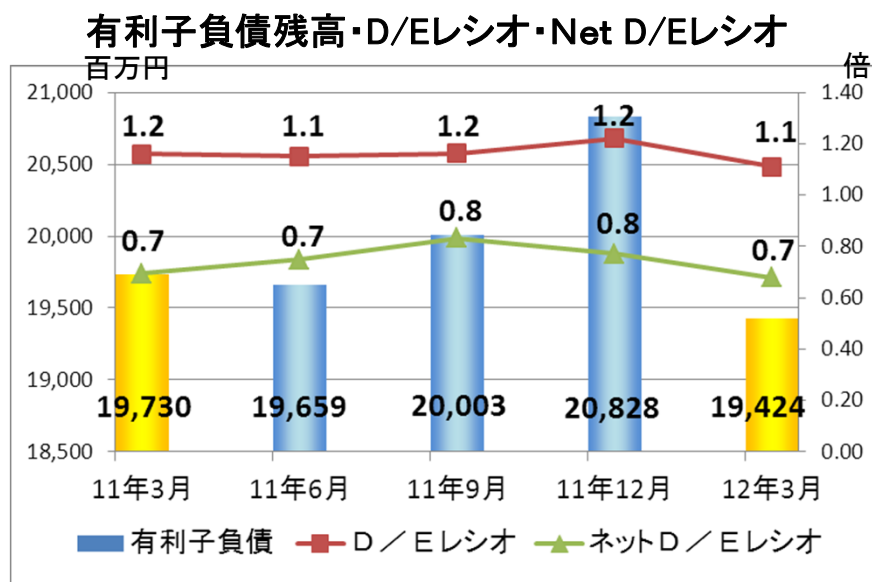
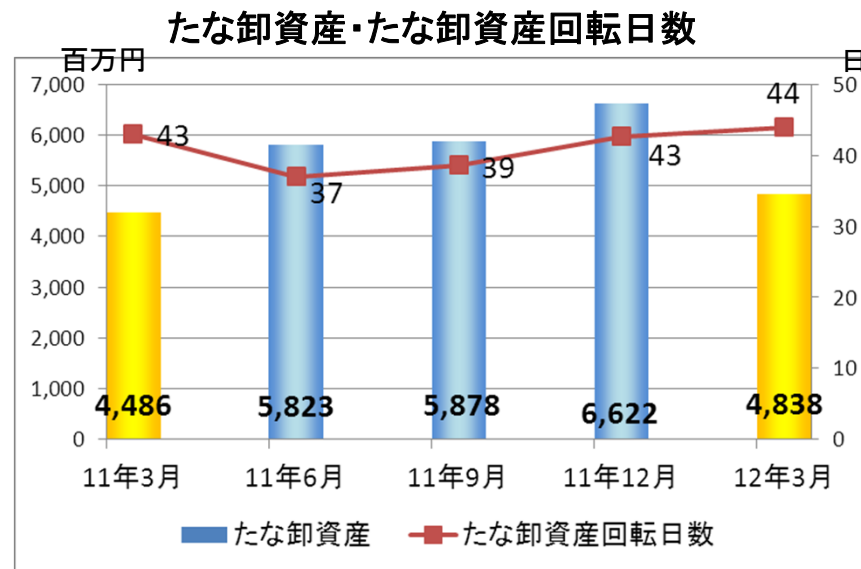
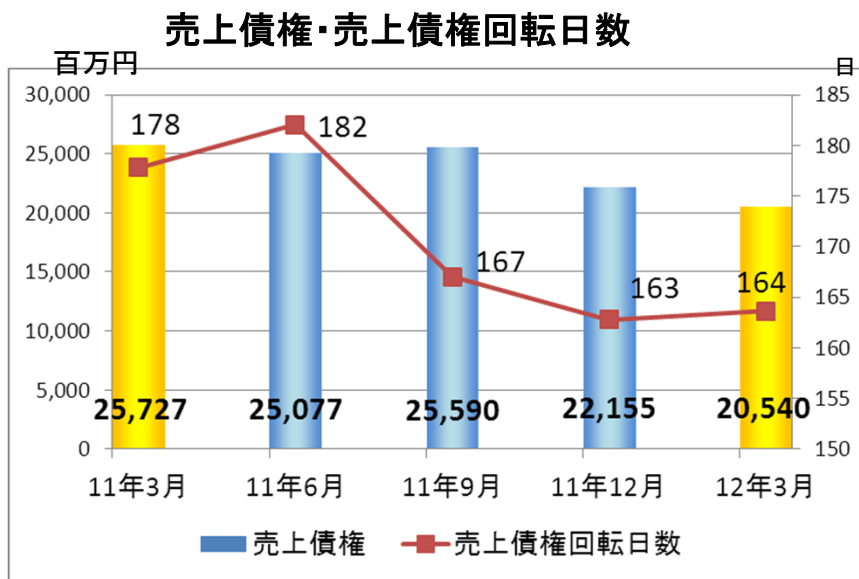
事業部門別四半期受注高の推移



事業部門別四半期受注残高の推移



V 参考資料 主要指標



注)売上債権回転日数、たな卸資産回転日数については、各四半期毎の期中平均値にて算出しております。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、為替レートなど潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。